

4 - 7 伊豆半島東部地域における全磁力観測 (1984年1月～1985年10月)

Geomagnetic Total Intensity Observations in the Eastern Part of Izu Peninsula
(January, 1984 - October, 1985)

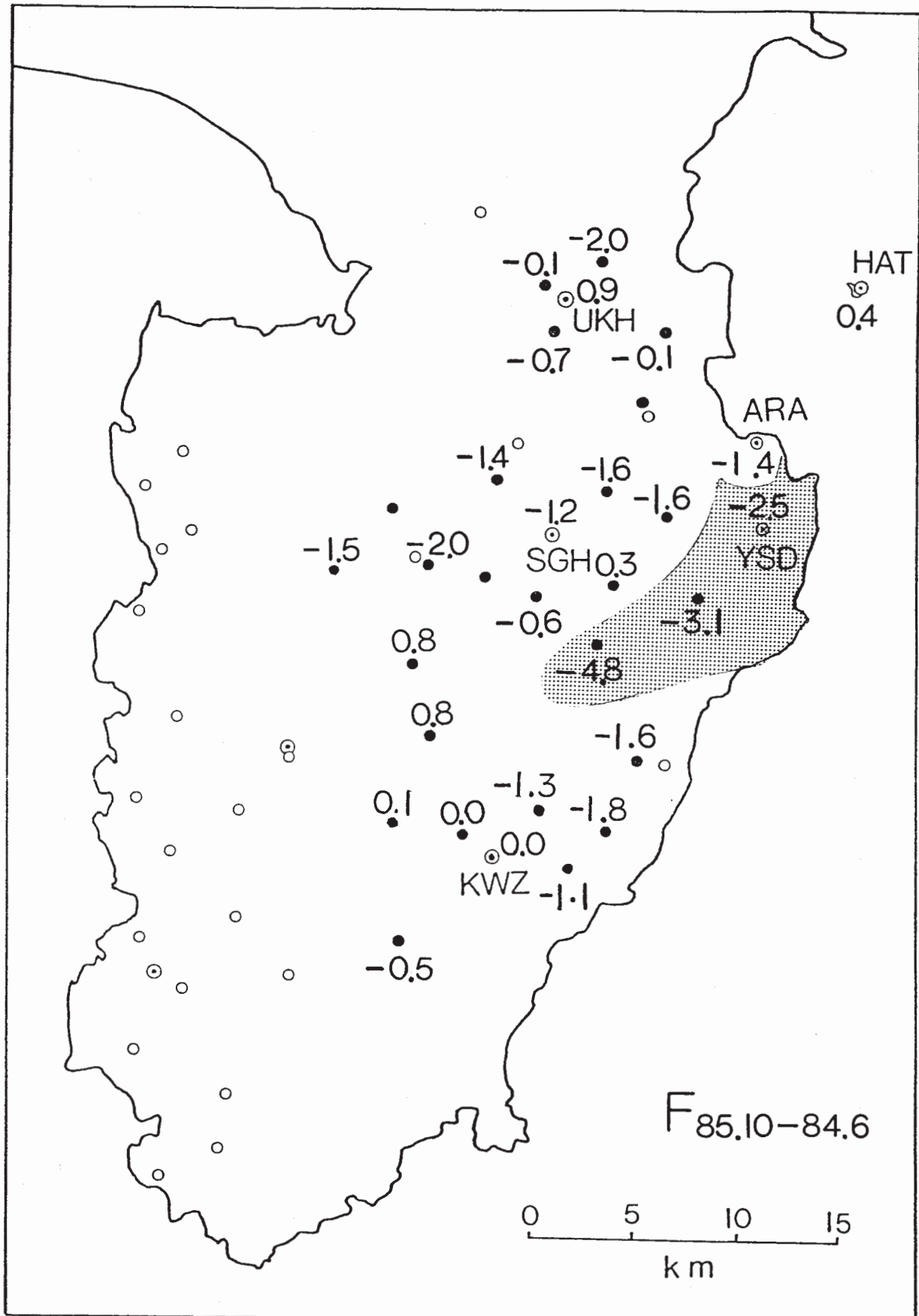
東京大学 地震研究所
地震予知移動観測室 地磁気移動班
Geomagnetic Mobile Survey
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

前報¹⁾に続き、表題の期間における全磁力観測結果を報告する。第1図に、1984年6月と1985年10月に行った、全磁力くり返し測定の結果を示す。この変化は河津(KWZ)を基準としており、単位はnTである。2nT以上の全磁力減少を示す地域を砂目で示した。国土地理院の水準測量および検潮記録によれば、伊東市南部を中心に、緩慢な隆起が続いている。全磁力減少域は、この隆起域と大体一致している。更にこれは、小室山-大室山-遠笠山と続く。ごく新しい単成火山群の分布する地域でもある。

第2図に、河津を基準とした、夜間全磁力差(0^h - 5^hの毎分値を用いた)の5日平均を示す。伊東市の新井(ARA)と吉田(YSD)および中伊豆町の菅引(SGH)における、全磁力の減少傾向が顕著である。この図でARAとYSDについて砂目で示したように、第1図の期間における全磁力減少は、1985年前半に生じたようである。

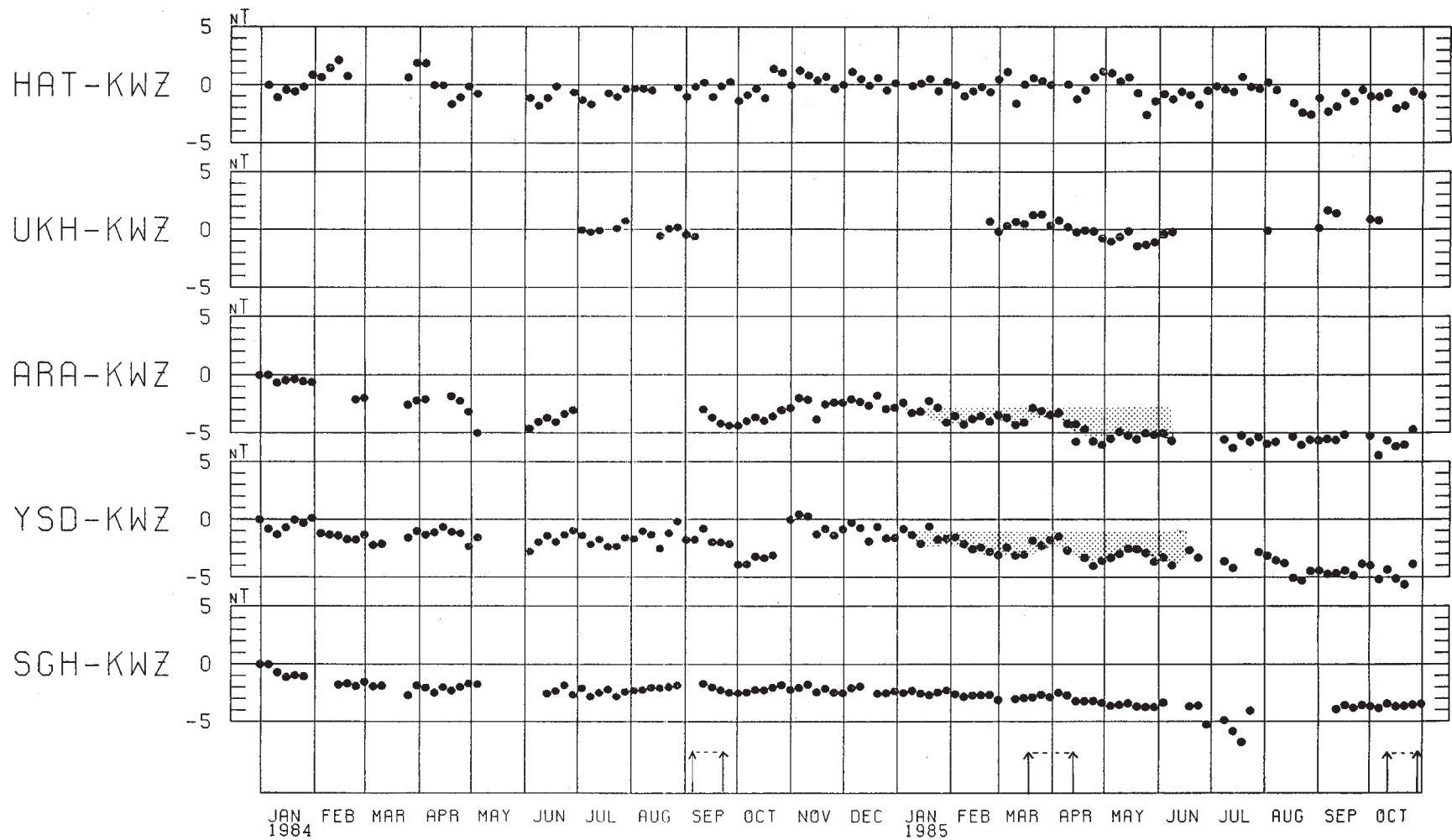
参 考 文 献

- 1) 地磁気移動班：伊豆半島東部地域における全磁力観測(1983年1月-1984年4月)，連絡会報，**32**(1984)，194 - 196.



第1図 全磁力測量結果。1984年6月-1985年10月。河津(KWZ)を基準。単位nT。砂目の部分は2nT以上の減少域。

Fig. 1 Changes in the F component relative to KWZ during the period from June, 1984 to October, 1985, as revealed by repeated surveys. A negative change ($\leq -2\text{nT}$) is detected in the shaded area, which coincides with the crustal uplift.



第2図 初島 (HAT), 浮島 (UKH), 新井 (ARA), 吉田 (YSD), 菅引 (SGH) における, 河津 (KWZ) を基準とした全磁力変化。夜間単純差の5日平均。下段の矢印は川奈崎付近の群発地震の発生時期を示す。

Fig. 2 Changes in the total force intensity at HAT, UKH, ARA, YSD and SGH relative to KWZ. Localities of stations are shown in Fig. 1. Five-day mean of simple differences of nighttime values are plotted. Arrows at the bottom indicate occurrence of swarm earthquakes off Kawanazaki.